

木村哲也『フランス語作文の方法（表現編）』（第三書房、2016）

スペイン語版で『構文編』と併せて同社から出ている書籍の、姉妹編である。

初級ではない仏作文と言え、亡くなられた大賀正喜の『現代仏作文のテクニック』（大修館書店、1978）、『書きながら考えるフランス語』（白水社、1986）などがあったが、上級者向けで、中級者向きではなかった。

それらの本を使いこなす前提として出されたのが、この本である。

大賀には、雑誌『ふらんす』の連載や、教科書版もあった。

大賀の訾咳に長く接した著者が、それらを継承する形で、数に関する個所をはじめ、体系的にまとめている。

特に、本書出だしでの、**de** の後の冠詞の有無については、大賀が主幹だった『小学館ロベール仏和大辞典』（1988）掲載の表現モデルに、検索自在の現在、傾向に変化があることを思い知らされる。

また、仏和辞典の記述に間違いがあるわけではないが、ごく基本的なことが案外載っていないことが、解説を読む中で感じられる。

そして、和仏辞典では、載っている助詞とそうでないものがなぜかある、といった、単純なことにも、痛感させられる。

それから、対義語などは、類似項目を引き比べることの大事さも感じさせる。

さて、4年ほど前に亡くなった大賀の生前の刊行でなかったことが惜しまれるが、それだけに、初級向けの作文の本しか出ていない昨今、待望久しい出版ではある。

200以上の課に1000もの練習問題があるが、分量の割には気楽に取り組める。

1年後には続編も刊行されるとあるが、楽しみである。

今の時代に合った、上級編の刊行も待たれる。

（著者自身による紹介）

